

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果について

三原市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査期日 令和3年5月27日(木)

(2) 調査対象 公立小学校第6学年, 中学校第3学年

(3) 調査内容

①児童生徒に対する調査

○教科学力の調査(「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に構成)

【小学校】

・国語, 算数

【中学校】

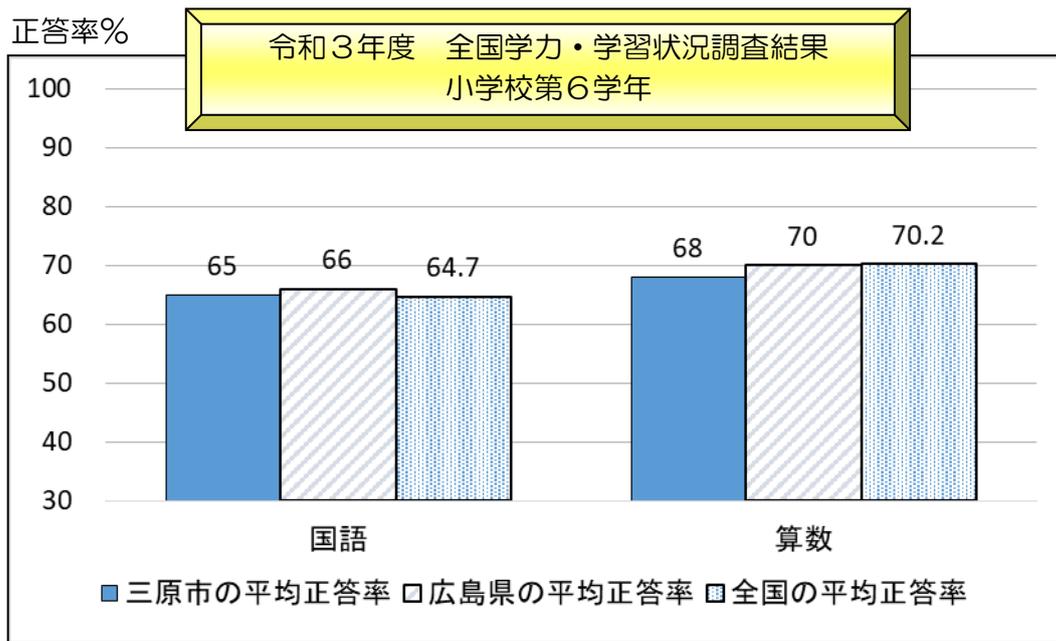
・国語, 数学

○学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する質問紙調査

②学校に対する調査

○指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

2 三原市の調査結果



【国語】

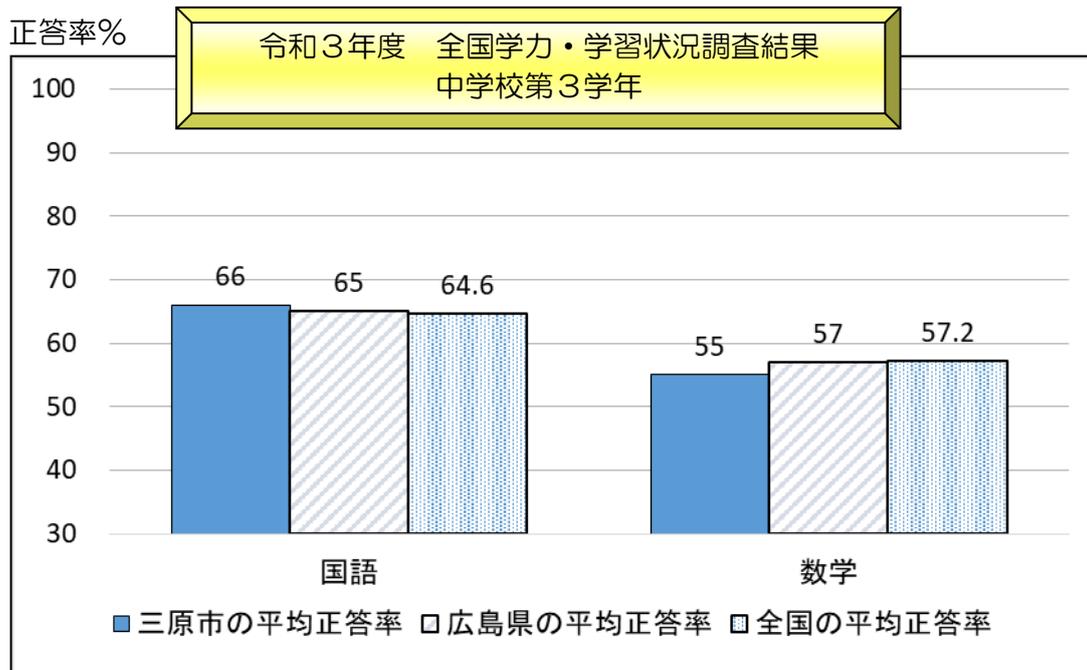
全体では、県平均より1%低い。特に、話すこと・聞くこと、読むことの領域で県平均との差が3%以上ある。文章全体の構成や展開を考える問題、目的に応じて文章や図表から必要な情報を見付けまとめて書く問題での正答率が低い。身に付けた知識・技能を活用する力が求められる。

改善策として、次の2点を意識して授業改善を進める。1点目は、文章構成や展開を考えさせる授業を実施すること。例えば、「本論にはいくつの事例が挙げられているか。」考えさせ、そう考えた理由（内容のまとめや重要な語句、文末表現、問いと答えの関係等）を交流する等の時間を設定する。2点目は、情報を関連付けて読ませる授業を実施すること。例えば、「この図と関係している段落はどこか。」と問い、文章と図表の結びつきを考えたり、語句と語句の関連性を図示したりし、お互いの考えを交流することで理解を深めることが出来るようにする。

【算数】

全体では、全国平均及び県平均より約2%低い。特に、図形領域において県平均との差が大きく、続いて測定、データの活用、変化と関係において差が見られる。正答率下位3問の中で2問が記述式の問題である。求め方や理由等を説明することにおいて課題がある。

改善策として、以下の3点を特に意識して授業改善を進める。1点目は、児童が3種類の説明の仕方（「事実」・「方法」・「理由」の説明）を意識して記述できるように指導する。具体的には、単に「説明しましょう。」と指示するだけでなく、何をどのように説明するのか、具体的に指示・発問を行う。2点目は、式や答えが何を求め、何を表しているのか、式や答えの意味を児童が表現する場を設定する。具体的には、児童が、式や答えの発表をして終わりではなく、教師は児童に問題文や図と関連付けて「何を表しているか。」を問いかけ、表現できるようにする。3点目は、課題のあった図形領域で、基本図形の求積方法の理解を深めるために、求積図形の提示方法を工夫する。具体的には、求積図形の高さを認識しにくい向きに変えて提示したり、2つ以上の三角形を組み合わせてできた図形を求積させたりする。求積する際には、常に図形を構成する要素に着目できるように指導する。



【国語】

全体では、全国平均より1.4%、県平均より1%高い。全ての領域で、全国平均及び県平均を上回っている。しかし、設問ごとにみると、文脈の中における語句の意味理解、文章を書き直した意図を考える問題につまずきが見られた。身に付けた知識・技能を活用する力が求められる。

改善策として、次の2点を意識して授業改善を進める。1点目は、言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり、観点を定めて読む授業を実施すること。文章中の語句が表す意味を問う授業を設定し、前後の文章の関係や登場人物の性格、行動などに注目して、その語句が表す意味について話し合う学習を通して、文脈における意味の捉え方を身に付けられるようにする。2点目は、読み手の立場に立って文章を整えるように指導すること。「多様な読み手を説得できる文章に不可欠なものはなにか」という問いを持たせ、話し合ったことをもとに、テーマに沿った意見文を書かせることを通して、論理の展開を考えて文章構成を工夫する力を育てる。また、自分の意見を書き、それを裏付ける事実を示し、自分の意見の正当性へと結び付けるなどの書き方を学び、各段落の働きを意識して書いたり推敲したりできるよう指導する。

【数学】

全体では、全国平均及び県平均より約2%低い。すべての領域において県平均を下回っており、特に図形領域は-3.1%と県平均との差が大きい。正答率下位3問は、すべて「数学的な見方・考え方」の観点の問題である。記述式の問題において根拠を明確にして、求め方や理由等を説明することに課題がある。

改善策として、2点を意識して授業改善を進める。1点目は、「事実」・「方法」・「理由」を記述する場面を授業で設定することである。授業者は、単に「説明しましょう。」と発問するのではなく、「事実」・「方法」・「理由」のうち、いずれを説明させるのかを意識して発問し、生徒は根拠を明確にして記述できるように指導する。

2点目は数学的な見方・考え方を働かせる場面を設定することである。課題を把握する場面で解決に必要な情報や数値等にアンダーラインを引かせるなどして、何を求めるのか、そのために利用できる情報は何かを生徒に表現させ、解決についての見通しを立たせる。また、課題解決後に、解決方法を振り返らせ、どのような見方・考え方を活用すれば問題が解けるかを自分のことばでまとめさせ、振り返りシートなどに記入させることで、いつでも活用できるように蓄積させていく。